

新生児集中治療室(NICU)での関わり

NICUには、低出生体重児のほか、先天異常、心臓や呼吸に関する疾患など、さまざまな疾患をもつ新生児が入院しており、心拍数や血圧、血液中の酸素状態などをモニタリングしながら、人工呼吸管理など高度な治療が提供されています。

また、新生児を対象としたNICUだけでなく、高度かつ集中した治療が必要な15歳以下の子どもにおいては小児集中治療室(PICU)で治療を受けることになります。NICUやPICUにおいて、理学療法士が専門的な介入を行っています。



特に成長・発達過程で何らかの問題が生じるリスクがあり、経過観察や発達支援が必要になるハイリスク児に対しては、理学療法を含めた発達支援が提供されています。

ハイリスク児に対する理学療法では、4つの機能の発達を支援することが大切です。

成熟・発達 新生児がもつ4つの機能

生理と自律神経の機能

運動の機能

状態を調整する機能

相互作用の機能



心臓の動き



お乳を吸う



眠っている



親子が見つめ合う



呼吸の動き



母親にしがみつく



覚醒



ものを目で追う



神経の働き



身体を動かす



活動的



泣き



他者の気持ちを 읽む

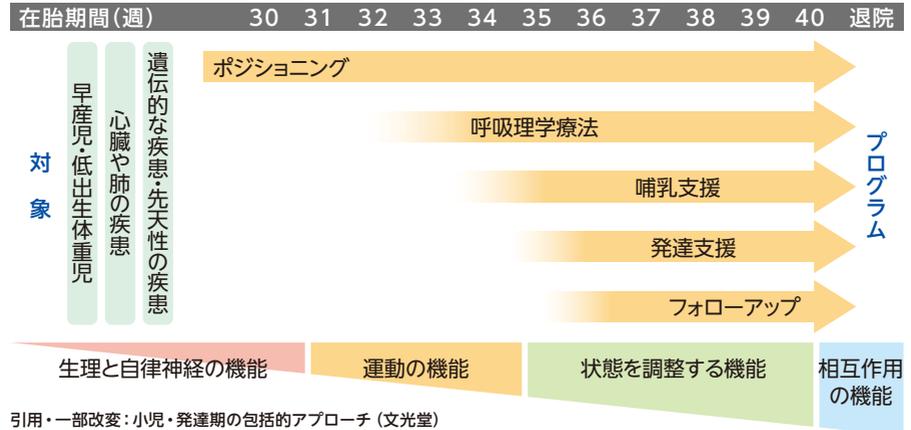
NICUでの理学療法

介入目的

呼吸循環器系の安定を図る

ストレスから保護する

発達支援



引用・一部改変：小児・発達期の包括的アプローチ(文光堂)

ポジショニング

母親の胎内にいるときに近い姿勢を保つ。タオルやクッションなども使用し姿勢の調整をします。



呼吸理学療法

呼吸器の発達を考えながら、呼吸が楽になるように肺の中の空気の交換を促したり、痰を出しやすくする補助をします。



哺乳支援

口からの哺乳が苦手な子どもに対し、嚥下・呼吸の協調性や哺乳姿勢の状態を確認し、適切で負担の少ない方法を指導します。



発達支援

子どもが注意を向けやすい(受容しやすい)刺激を用いて、感覚を受け入れる力を伸ばす支援をします。

